

幸せの歌



留萌管内産米PRキャラバン隊来訪（11月5日） 右から「JA南るもい 橋村組合長」
「JAオロロン 長谷川組合長」「JA苫前町 松原組合長」「JA宗谷南 向井地組合長」
「ミス北海道米 盛 彩奈さん」

JA 宗谷南

**2014NEN
12GATUGOU
~SEASON38~**

よつ葉ミルクフェアin東京

10月21日～29日の期間中において、毎年恒例となっております、「よつ葉ミルクフェアin東京」が有楽町にある北海道どさんこプラザ内で行われました。（宗谷管内の担当は26日）
また、よつ葉運営協力会として、風烈布地区の落谷雅人さんが最終日を担当しました。

ミルクフェアは、平成17年から開始され、毎年好評となっている事業で、道内よつ葉工場に出荷している生産者から女性を対象に各農協2名と職員1名の構成で全道より7班、63名が、どさんこプラザで消費拡大運動に参加しました。

当農協からは、風烈布地区の戸澤宏美さん、本幌別地区の菊池静子さんと営農部の村田職員が参加し、宗谷管内3JA、9名が25日～27日の3日間の日程で、まだまだ暖かい東京へと向かいました。初日は、(株)よつ葉乳業東京支店でよつ葉乳業の歴史や販売実績の状況、乳製品の情勢などを研修し、翌日行われる会場の下見をした後、初日担当していた根釧地区の皆様との交流会を行い、ミルクフェアの労をねぎらうと共に明日の宗谷地区の担当者を激励して頂き、他地域の生産者の皆様と親睦を深める貴重な時間を過ごさせて頂きました。



よつ葉乳業東京支店にて研修会



900mlの牛乳パック、道内ではイトーヨーカドーにて販売



お台場を散策しました



翌日は、午前の部をJA中頓別が担当し、午後の部をJA東宗谷とJA宗谷南が担当することとなりました。午前中は東京観光でお台場を散策、午後から女性は牛柄のエプロン、男性はよつ葉のハッピーを着用して「北海道の牛乳はいかがですか、私たちの搾った牛乳の乳製品です」と宣伝し、実際に試飲をしてもらいました。「すごくおいしいね。」「どこで売っているの？今度からよつ葉の牛乳にします。」などの声を頂き、皆さん笑顔で消費拡大運動を楽しんでいました。



ホワイト Cottage



白いパフェ



その日の夜は、消費拡大運動の労をねぎらい、次の日の担当である十勝の皆様を激励し、東京の最後の夜を楽しみました。翌日はスカイツリーに登り東京を一望、隣接している東京ソラマチにある、よつ葉直営のカフェ「ホワイト Cottage」で名物の「白いパフェ」を食べながら、参加した方々は、「疲れたけど、機会があればもう一度参加したい。」と口々に話されていました。

消費拡大運動の期間中、どさんこプラザへの来場者数は43千人、試飲数18千人で売り上げが419千円でした。宗谷管内担当日は、来場者数7千人、試飲数3千人、売上が68千円と日曜日という事もあり試飲数、売上共に多くとても忙しい中、頑張っていた皆様本当にお疲れ様でした。

留萌管内産米PRキャラバン

11月5日、留萌管内産米PRキャラバン隊が、当農協を来訪しました。

キャラバン隊は、留萌地区農協米対策協議会及び留萌地区北海道米食率向上戦略会議のメンバーで、会長のJA南るもい橋村組合長とJA苫前町松原組合長、JAオロロン長谷川組合長その他、留萌振興局、ホクレン留萌支所、JA留萌地区青年部（米ファイター）やミス北海道米の盛彩奈さんら13名が留萌管内産米の食率向上と地産地消、JA生活店舗の取り扱い推進で訪れました。

今年の留萌管内産米は、1穂あたりの粒数がやや少ないものの低タンパクで品質の良い物ができたとの説明を頂き、向井地組合長は「米価が下がっており大変だと思いますが、日本の米を作っている誇りを忘れないでほしい」と激励しました。

また、2014年産の留萌管内産米は、低タンパク米出荷率が10月30日現在で82%と全道平均を上回っており、留萌管内産米の「ゆめびりか」はステッカーが貼っているのので、ご購入の際は確認して頂きたいと述べ米を贈呈して頂きました。



留萌管内産米の証しであるステッカー



ミス北海道米からは、ななつぼしが贈呈されました。



留萌地区青年部の皆様、今年からコメレンジャーネオと改名されたようです。



キャラバン隊との意見交換会

農林水産省宗谷管内視察

11月16日～17日の2日間に渡り、道内畜産事情現地調査の為、農林水産省生産局、原田畜産部長ら3名が宗谷管内を来訪されました。

16日はJA稚内、JA北宗谷の酪農家を視察し、17日はJA宗谷南、JA中頓別町、JA東宗谷の酪農家やTMRセンターを視察され、当農協では、歌登中央地区の廣川牧場を訪れました。

廣川牧場は、平成21年度の農場リース事業を活用し新規就農した牧場で、原田部長は農場リースの内容や現状の課題、酪農仲間に関する話題で意見交換が行われました。その中でも就農当時の苦労した事や新規就農者同士の付き合いや、先輩酪農家の方々との関わりについて熱心に廣川さんの話に耳を傾けており、廣川さんが酪農ヘルパーに所属していた事もあり、スムーズに地域に溶け込めた事を聞くと安堵の表情を浮かべていました。

今回の現地調査により、宗谷の酪農現場の生の声を聞くことが出来、これからの酪農発展の手助けが出来る様参考としますと、宗谷を後にしました。



女性部

経営・生活・創意工夫展

10月29日、酪農振興センターでJA宗谷南女性部の経営、生活、創意工夫展が行われました。

日頃より、農作業の合間を見て制作された、絵画や陶芸、裁縫など芸術の秋にふさわしい多くの作品が展示された他、ゴマプリンやカボチャ団子なども振る舞われ、来場者を魅了しました。

奥出女性部長の挨拶の中で、ゴミ袋の値上がりの話などから、普段の生活を工夫して、より良い生活を築けるよう頑張りましょうと声をかけていました。



子牛を高く売ろう

10月21日、農業改良普及センターの取り組みで酪農女性数名を対象に「子牛を高く売ろう」をテーマに講習会が行われ、当農協の酪農生産部山本課長が講師に選任され、子牛を高く売る為のコツを紹介しました。

家畜市場のセリの様子の写真を使い、高く売れる牛の体付きの違いや、高く売れる牛の管理方法の実践例を紹介し、今後の営農の参考に役立ててほしいと話し、最後に「今のままでは何も変わらないので出来る事から変えてみましょう。個体販売も大事な収入なので、少しでも高く売れるよう頑張りましょう。」と締めくくりました。



授精所だより

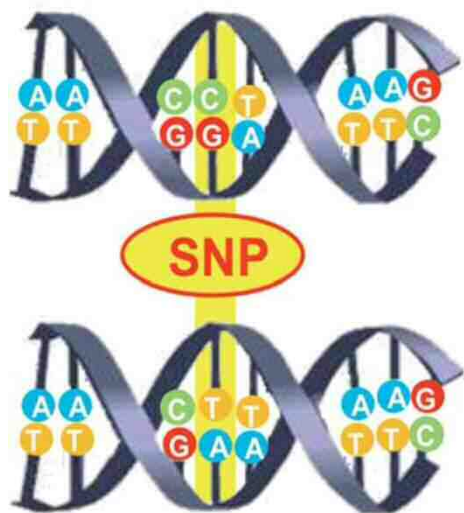
ゲノミック評価について

乳用牛の改良に欠かせない遺伝子情報は、各検定牛の体の中の細胞ひとつひとつに、左図のようにDNAの塩基配列として書き込まれます。

SNPと呼ばれるマーカーを利用し、血統情報やこれまでの牛群検査や、抗体検査で蓄積した遺伝情報と併せて遺伝評価処理することを、ゲノミック評価といいます。

SNP(スニップ)とは

左の図のように塩基が各検定牛で異なる部分のことで、DNA上に数百万あると言われていて、検査方法は毛根採取になります。



DNAの塩基

A アデニン	C シトシン
T チミン	G グアニン

毛根採取の流れ

ホルスタイン協会に申し込み



ゴミや古い毛を取り



200本程度採取



SNP検査用試料ラベル (記入後、試料袋に貼付して下さい)
この試料は下記の牛から採取しました。

動物識別番号(登録番号)
種別・歳月 (該当する方に○を付ける。)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

採取者
姓 名 _____

検査者 (確認者)
姓 名 _____



この部分が重要です。
毛根が付いている事を
確認して下さい。

メリット

- ◆ 遺伝的能力の予測精度向上
- ◆ 牛群の中で一番良い未経産牛が分かり、後継牛を残せるように、精液を選定することができる
- ◆ 世代間隔の短縮により、遺伝的改良量の増加
- ◆ 各未経産の特徴を把握でき、良いところを活かしながら、後継牛を生産できる。

申請をするには、牛群検定に参加し、体型審査を受検することが前提となります。
料金・方法など詳しいことは授精所に相談してください！



青年部食育紙芝居

11月25日枝幸幼稚園において、青年部の食育活動の一環である、牛乳にまつわる紙芝居の読み聞かせを行いました。

読み聞かせをしたのは、森次部長で、牛乳の生産現場から流通、そして食卓に並ぶまでをミルクジャパンのキャラクターが紹介していくというもので、森次部長の演技力もあり、子供たちは紙芝居の世界に引き込まれていました。

また、紙芝居終了後は「みるきいちゃん」より児童全員に牛乳をプレゼントされ、子供たちは大喜びの様子でした。

最後に、「みるきいちゃん」と記念撮影を行い、「いっぱい牛乳を飲んでね」と枝幸幼稚園を後にしました。

この活動を通じ子供達が、牛乳を沢山飲んでくれる事を願いながら、今後も食育活動を続けていきます。



地区懇談会

12月8日・9日で地区懇談会が行われました。

始めに、組合長の挨拶で、寒波が襲来し牛舎の水道など凍結で苦勞されている中出席された組合員にお礼を申し上げると共に、懇談会がこの時期まで遅れた事をお詫び申し上げ、T P P の状況や J A 改革等の近況報告がありました。

農協の運営については、前年より若干の収益減となりますが、今期の決算には良い報告が出来る様、役員一丸となり頑張る事を述べられました。また、生乳生産は11月中旬で、前年対比100%を超えましたが、今後離農等による乳量減産分を確保していくのは難しいものの、乳価が90円台となり所得向上には増産であることを強調し、プレミアム乳価と増頭助成金が生産意欲につながり、来年度はさらなる乳量増を皆様にお願ひし、最近の酪農情勢や畜産クラスター事業触れ、農協改革も含め、酪農情勢が一刻と変化していく中で苦勞も多いが、頑張ってほしいと述べました。

また、参加された組合員の皆様から、様々な意見や要望が活発に出され、有意義な懇談会となり、今後も皆様の意見や要望を取り入れられるような懇談会にしていきたいと思ひます。

昼食は、2年前からオードブルでテーブルを囲みながら行っていますが、和んだ雰囲気の中でも様々な意見が出されています。来年は是非奥様方も参加され、テーブルを囲みながら意見交換が出来ることを願っています。



冬期間の乳質悪化

乳質悪化の要因は季節により異なり早めの対策が必要とされます。冬期間の乳質悪化の要因については以下の様な事が考えられます。

体細胞数

厳寒期になると、エネルギー要求量は増加します。また、牛体が汚れていると要求量はさらに増加します。

栄養不足は免疫力の低下を招き乳房炎を発症しやすくなります、牛体の衛生に心掛けると同時に、乳成分を確認したうえで適正な栄養管理をしましょう。



耐熱菌

外気温が下がる秋以降に、菌数が上昇する場合、ボイラーの能力不足による洗浄不良が疑われます。洗浄水温（開始70℃、終了40℃）の確認をしてみましょう。

環境性細菌

寒さ対策の為に畜舎を閉め切ると、湿気がこもり牛床が常にぬれた状態になり細菌数が上昇します。冬期間でも適正な換気に努めましょう。

牛舎内で牛を飼養するには、24時間連続して換気がされているのが理想です。夏期間の換気は暑熱対策、冬期間は除湿対策を主目的とします。牛と人にとって、換気レベルが高いことで健康や生産性が改善されます。今一度、冬の換気について考えてみましょう。

牛の月齢別の換気必要量を表1に示しました。冬の換気は夏の1/6～1/10程度で十分です。また、成牛の1日の水分生産量は氷点下でも11kgあり、50頭牛舎では1日当たり550kgの水分が発生します（表2）。もし、冬期間に牛舎を閉め切って換気を怠ると、牛舎内は過湿状態となり飼養環境が悪化しますので、冬期間の換気は夏の1/10程度の換気量で、可能な限り牛舎の上部の空気を静かに外に排出するようにしましょう。（上部の空気は水分を含んで汚れています）

表1 乳牛1頭あたりの換気必要量

牛の種類		m ³ /時		
		夏	春・秋	冬
仔牛	(0～2ヵ月)	170	85	25
育成牛	(2～12ヵ月)	221	100	34
	(12～24ヵ月)	306	136	51
成牛	(630kg)	798	289	85

表2 ホルスタイン乳牛の

水分生産量		kg/日
気温	水分生産量	
-1℃	11	
10℃	14	
26℃	25	

表3 乳牛の年齢と乳期別の環境限界温度の上限と下限

牛の種類	下限	上限
仔牛 (哺乳期)	13	26
育成牛 (体重50～200kg)	-5	26
乾乳期	-14	25
泌乳期 (最盛期)	-25	25



暴風雪に警戒を

今年も雪の季節となり、毎日の作業の他除雪作業が加わり大変苦労されているかと思えます。近年、道内では、局地的な暴風雪の発生や最深積雪の更新など、厳しい気象に見舞われている状況にあり、12月の数年に一度の暴風雪は記憶に新しく、畜舎の被害や、集乳ローリーの運行に支障が生じるなどの影響がありました。

またここ数年、畜舎やD型ハウスなどの施設においては、全壊や半壊など甚大な被害が報告されています。老朽化している施設に係らず、こまめに屋根の雪下ろしを行うなど対策が必要とされますが、屋根の雪下ろしを行う際は、必ず家族などに伝えてから行う事や、できれば二人以上で作業するなど、万が一の事故を考えて行ってください。

他にも暴風雪時には、停電の恐れがありますので発電機などの停電対策も必要とされます。普段から停電で使用する不能となる設備を確認し、通電の優先順位を決めておく必要があります。

今後も最新の気象情報に注意し、早めの準備、安全な作業をお願いします。



電気料金値上げによる節電対策

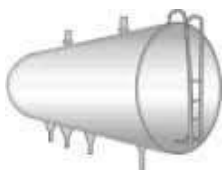
平成26年11月1日より電気料金の値上げが、家庭用で平均15%・業務用で平均20%が実施されています。

農業関係では、酪農における搾乳機械やバルククーラー等の電力が必要不可欠となっており、2年連続の電気料金の値上げは大きな痛手となりました。

その為、経営に支障が生じない範囲であらゆる手立てを講じながら、節電に取り組む必要があります。

生産現場においては、バルククーラーの冷凍機ファンや換気扇等の埃やゴミを取り除き、動力の効率を良くしたり、不必要な電力の使用状況を改めて見直す事をお勧めします。

また、参考例として平成24年の計画停電時に、ある酪農家の節電対策として、検証した結果を紹介します。



検証した酪農家は、60頭つなぎ飼いの牛舎で年間出荷乳量500t、4000kgのバルク、搾乳ユニット6台使用している牛舎環境での動力割合の一例で、牛舎内の電力使用量の内搾乳作業に関わるバルククーラーとミルカーで、約半分の消費電力量であることが判明している。

検証1 バルククーラー冷凍機の洗浄する前と洗浄後を比較したところ、バルククーラーで1日当たり30分早く止まる結果となり月当たりで計算すると約15時間の削減となり、7.5kwとして考えたとき7.5kw×15時間で112.5kw/hとなり消費電力量の2.6%の削減となる。

検証2 プレートクーラー設置と設置前を比較したところ、プレートクーラー設置前に比べ設置後は1時間20分早くバルククーラーが止まる結果となり1月当たり39時間の電力の削減がみこまれ、7.5kw×39時間で292.5kw/hとなり消費電力の6.7%削減できる結果となった。

編集委員

村田 太
伊藤 直樹
川合 直樹
滝口 直也
森川 忠幸
高本 等